

大学生と
留学生のための

る
んぶん

論文ワークブック

著／浜田麻里・平尾得子・由井紀久子



【本書の特徴】

- * 日本人も留学生も使える
初めての本
- * 日本人にも留学生にも
役立つ内容
- * 実際の論文の表現が身につく
- * 身近な例から書くコツがわかる
- * ステップに従い無理なく
論文完成



くろしお出版

大学生と
留学生のための

論文ワークブック

浜田麻里
平尾得子 共著
由井紀久子



くろしお出版

目次

この本を使って学ぶみなさんへ	v
<ことば>の記号の見方	viii
この本を使って教える方へ	viii

基礎編 1

1 よく使われる文の形	2
2 よく使われる語と表現	5
2-1 論文で使ってはいけない語と表現	5
2-2 論文でよく使われる語と表現	7
3 引用	9
3-1 引用	9
3-2 要約	11
4 句読点	13
4-1 句点	13
4-2 読点	13
5 表記規則	16
5-1 横書きの場合	16
5-2 縦書きの場合	18
5-3 手書き原稿	18
5-4 ワードプロセッサ原稿	19
6 まとめの練習	20

論文編 23

I 論文ってどんなもの?	23
1 論文とは	24
2 論文の構成	26
3 構成の作り方	29
4 本論のまとめ方	32
5 書いてみよう①	43
6 3種類の文	44

7	書いてみよう②	46
8	論文のモデル	48
II	序論	51
1	序論の役割	52
2	背景説明	55
2-1	事物の説明	56
2-2	先行研究の紹介	57
2-2-1	先行研究の概要の紹介	59
2-2-2	先行研究の部分的紹介	61
3	問題提起	64
3-1	問題点を指摘する	64
3-2	疑問を示す	67
4	方向付け	69
4-1	目的の明示	70
4-2	問題解決の方法	71
5	書いてみよう	74
6	全体の予告	75
III	本論	79
1	本論の役割	80
2	論拠提示	84
2-1	データ提示	85
2-1-1	事柄データ	86
2-1-2	数量データ	87
2-1-3	文章データ	90
2-2	意見提示	93
2-2-1	データ解釈	95
2-2-2	考察	96
3	結論提示	100
4	行動提示	105
4-1	部分の予告	106
4-2	部分のまとめ	108

5 論の展開	111
6 書いてみよう	115

IV 結び	117
1 結びの役割	118
2 全体のまとめ	121
3 評価	126
4 展望提示	129
5 書いてみよう	132

資料編

I 場面別表現集	133
1 図表に関する表現	134
1-1 図表を紹介する	134
1-2 数に関する表現	135
1-3 図表を用いて説明する	140
1-4 図表に示されたデータの解釈を提示する	141
2 資料に関する表現	145
2-1 使用する資料を示す	145
2-2 古語や外国語の資料を引用する	146
3 調査・実験に関する表現	148
3-1 調査の概要を示す	148
3-2 実験の概要を示す	150

II 展開の技術	153
1 例を挙げる	154
2 対比する	156
2-1 類似点を挙げる	156
2-2 相違点を挙げる	157
3 注目させる	159
4 推論を示す	161
5 結論の補強	164

Ⅲ 卒業論文、学術論文のために	167
1 論文の付属要素	168
1-1 表題	168
1-2 要旨	168
1-3 キーワード	169
1-4 目次	170
1-5 付記	170
1-6 注	171
1-7 参考文献	172
1-8 付録	175
2 書いてみよう	176
 ＜ことば＞一覧	177
.....	
引用文献番号および出典	184
参考資料	186
あとがき	187
 ＜別冊＞ 解答編	
 コラム	
1 終わりよければ… 一文末の表現—	15
2 論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法(1) —なら—	31
3 論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法(2) —ば—	47
4 論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法(3) —と—	77
5 論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法(4) —たら—	78
6 主語を表す「…は」「…が」(1) —は—	83
7 主語を表す「…は」「…が」(2) —が—	104
8 「…から」「…ので」「…ため」(1) —Fの文と理由節—	110
9 「…から」「…ので」「…ため」(2) —Aの文と理由節—	120
10 「…から」「…ので」「…ため」(3) —Oの文と理由節—	131
11 「…から」「…ので」「…ため」(4) —まとめ—	132
12 「～た」と「～ている」の使い分け	152
13 「これ」「それ」「あれ」?どれ? —指示詞の使い分け—	155
14 「分類」	166
15 「学生を育てる」指導と「学生が育つのを補助する」指導	176



この本を使って学ぶみなさんへ

○この本は、次のような人がレポートや論文（以下では2つをまとめて論文と呼ぶ）を書く練習をするために作られています。

- 1 はじめて日本語で論文を書く人
- 2 これまでに何回か論文を書いたことがあるが書き方に自信がない人やもっと上手に書けるようになりたい人

先生と一緒に勉強する場合でも、自分一人で勉強する場合でも、この本を使うことができます。

○この本を使うと、次のようなことを学ぶことができます。

- 1 論文の組み立て方
- 2 論文を書くために知っておかなければならないことばのルール

なおこの本は主に大学レベルの文科系の分野の論文を書くことを目標にしています。

○論文を書くのが上手になるためには…

- 1 他の人が書いた論文をたくさん読みましょう。論文を読みながらこの本で知ったことばのルールや論文の組み立て方が実際にどのように使われているかを観察してみましょう。
- 2 自分が書いた論文をできるだけたくさんの人に読んでもらいましょう。自分が言いたいことが理解してもらえたかどうか、読んだ人に意見を聞きましょう。

この本で論文の書き方をしっかり勉強し、この2つを実行すれば、論文を書くのがどんどん上手になるでしょう。頑張ってください。

○この本は次の3つの部分に分れています。

1 基礎編

論文と普通の作文のことばづかいの違いや、。 「 」などの記号の使い方など、論文を書くための基本的なルールを知ることができます。ルールをもうよく知っているという人はこの部分をとばしてもよいでしょう。

2 論文編

論文編ではまず「論文ってどんなもの」で論文の基本的な構成とその作り方を学びます。そのあと「序論」「本論」「結び」の3つの順に詳しく書き方を練習します。各々の終わりには「書いてみよう」があります。ここでは練習した内容に基づいて「日本は豊かか」をテーマにして、あるいは自分で自由にテーマを決めたり資料を集めたりして論文を書いてみましょう。指示に従って論文編の最後まで進むと論文を1本完成させることができます。

3 資料編

ここでは論文によく使われる表現や論理の展開の方法をまとめて紹介しています。どの論文にも必要な表現というわけではありませんので、あとで必要になったときに練習してもよいでしょう。

論文編

論文を書くときの考え方は日常生活におけるさまざまな行動と共通点があります。どんなところが似ているか、☆に示された質問に答えながら考えてみましょう。

☆の質問に対する説明。質問に対する答えがすぐわかる人はここをとばしてもよいでしょう。

説明の中の重要な部分をpointとしてまとめて示してあります。

<ことば>

実際に論文を書くために使う表現を例文と共にまとめたものです。



序論の役割

☆大学のバナーなどで初めて会った人と話するとき、一番最初にどのような話をしますか。

「はじめまして。〇ちゃんです。文学部のマスター1年です。」

「オオちゃんです。電気工学科の研究生です。」

「むー、いふきって人、知っていますか。〇〇〇〇の研究生なんですか。」

上の例ではまず、自分が何者かを言い、「〇ちゃんです。文学部のマスター1年です」「オオちゃんです。電気工学科の研究生です。」次にお互いの間に共通の知識を作ろうとしている。「いふきって人、知っていますか。」

このように、人と人が話をするとき、まずお互いがどのような人間かをはっきりさせ、次にお互いが共通に知っていることが何かを探り、その共通知識を土台に話を進める、という方法がよく使われるのではないかと。もし二人とも知っていることが全然ないときには、早く共通のものを作らなければならないだろう。これはいわゆる二人がうまくコミュニケーションするために必要な準備である。

論文の場合も同じである。読む人に興味を持ってもらい内容をよく理解してもらうためには、論文の最初の部分で何について書くのかを知らせ、また必要な背景知識を読む人に提供して、読むための準備をしてもらなければならない。この準備の役割が「序論」なのである。したがって序論の主な役割は次の通りである。



序論の役割

A 何について書くのか、どうしてそれについて書くのかをはっきりさせる

B この論文を読むために必要な知識を読む人に示す

このような役割を果たすために、論文の序論はいくつかの部分から構成されている。それを論文の例で見てみよう。

[例1 序論]

日本は「明治維新からの30年あまりで、世界の大国になった」と言われている。つまり、一般には日本の近代化は、明治維新から始まったと考えられているのである。

日本の近代化についてこれまで、一般的であった考え方を紹介している。この論文ではこの一般的な考え方は違う考え方を提示している。これを知らないという筆者がなぜこの論文を書いたのかわからない。つまり、「B」この論文を読むために必要な知識を読む人に与える」が行われている。

52

資料編

<モデル>

よく見られる文章のパターンをまるごと取り出しました。

モデルの内容の分析



例を挙げる

自分の意見に合うような例を探して意見と一緒に挙げることで、自分の意見をより強固に提示することができる。



ことば20

日本は1854年から西洋の国々と本格的に国交を始めるようになり、日本の建築の伝統と全く違った西洋の建築文化を、東京・京都に「二」から模倣を習得して受け入れ始めた。一例を挙げれば、日本政府は1877年に最初の国立大学東京大学を東京に設け、機械工学や土木工学などの学科と並ぶ建築学科を置き、内閣内務省を置き、日本人建築家の育成に力を注いだ。これが今日の東京大学工学部建築学科の発祥であり、以後建築の技術が大いに磨かれた。



ことば20

たとえば、
(一) 例をあげれば
(真体) 例をあげると

真体的には
現代社会はコンプレックス社会と評あふれたい状況を迎えた。たとえば、物を買った瞬間はもちろんのこと、学んだり教わったりする瞬間、あるいは思考活動までもがコンプレックスの動けなしいは成長し得ない状況になっている。

(2) 真体例、これらの例は、(一) 例をあげると、示すより例である、示唆するものである

○その他にも、17世紀には瓦葺と呼ばれたコンプレックス、延が骨を介していた。これらの例は、模倣の面でも近代化の基礎が江戸期にすでにできていたことを示すより例であろう。

154

